● 北海道指定　有形文化財

旧永山武四郎邸

■所　在　地　札幌市中央区北２条東６丁目２番地
■建 築 年 代　明治10年代前半
■指定年月日　昭和62年11月27日
■管　理　者　札　幌　市　TEL232-0450

Hokkaido Cultural Property

Nagayama Takeshiro Residence

Built in 1880 and occupied by Nagayama Takeshiro, an early influential pioneer of Sapporo

この建物は、明治10年代前半、屯田事務局長時代の永山武四郎が私邸として建築したものである。

明治44年８月、同邸の土地・建物は三菱合資会社に買収され、同社の北海道における炭鉱事業調査及び起業準備等の基地として使用された。

大正２年４月、敷地のうち313坪余を道路用として札幌区に寄付した。

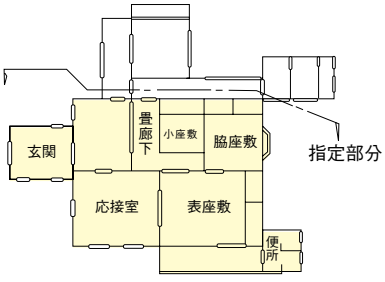
昭和12年ころ、建物の北側部分を解体して、木造のクラブ（新棟）を建築し、旧永山邸部分は貴賓室として使用した。

昭和60年９月、市街地再開発事業の一環として、当時の所有者三菱鉱業セメント株式会社から札幌市が譲り受けた。

建物は、全体として重厚かつ簡素な意匠でまとめられ、細部の意匠は、開拓使が手がけた和洋住宅洋式の特色をよく伝えている。

また、明治前半期の本道の上流住宅建築の好例であり、特に洋風応接室と書院座敷を直接に連絡する方法は、日本近代住宅史の展開を考えるうえで重要である。

旧永山武四郎邸



桁行　11.817m・梁間　9.09m
木造平屋建　亜鉛鉄板葺
外壁　下見板張り
建築面積　136.06m²
（新棟の面積　525.45m²）

応接室より
表座敷を望む

額縁詳細

この建物は、洋風の玄関・ホール・応接室および和室等からなり、玄関棟の妻（つま）には十字形飾りを付けている。母屋（おもや）の小屋組（こやぐみ）は、洋式のキングポスト、外壁は隅柱（すみばしら）型付きの下見板張りとしている。

応接室内部の壁は大壁（おおかべ）で、天井とともにしっくい仕上げ、天井の中央には紅葉のモチーフの中心飾りを設けている。この意匠は、清華亭や豊平館に酷似している。

和室と応接室の開口部には、洋風の引き込み板戸を設け、和室側の額縁（がくぶち）は、清華亭のものと近似の洋風繰り形でかざっている。８畳間の天井板は、道産の各種の雑木を集めて寄せ張りとしている。

永山邸絵図『札幌繁栄図録』（明治20年）

札幌繁栄図録によると、敷地は木製のへいで囲まれ、北３条通から側溝に木製の橋を２本かけ渡してある。西側正面には銃を持った屯田兵が見える。

北側および東側には、現在は存在しない部分があり、かつては、かなり大きい平屋の従棟が接続していたことを示している。

永山武四郎

永山武四郎は、天保８年（1837）４月24日、薩摩国鹿児島郡薬師馬場町で出生した。

明治５年、開拓使に出仕、屯田兵設置に尽力し、同11年屯田事務局長となった。

明治21年、第２代北海道庁長官、同29年第７師団長となった。この間、本道の開拓、産業の発展につとめ、とくに炭鉱の開発、鉄道の延長等につとめた。

明治37年、東京にて死去したが遺言により、旧豊平墓地へ埋葬された。なお、昭和57年、里塚霊園に改葬された。

洋室中心飾り

建築後、次のような改修が行われた。即ち応接室の床を下げたこと、当初のホールの北に隣接した２つの小部屋の間仕切りを取払い、大きいホールとしたこと。15畳和室と接続した10畳とその押し入れを４畳和室の小部屋と、カギの手状の廊下に改造したこと。脇座敷の出窓の外開き窓を、引き違い窓（中央）とはめ殺し窓とに改造したこと等である。その他は旧態をよくとどめている。